（２）工事の時間的コストの低減

¥ 🕒

斜め控え護岸(TRD工法)の開発による工期短縮とｺｽﾄ縮減

関東地方整備局　荒川上流工事事務所　小新井護岸災害復旧工事

【施策の概要】

河川の低水護岸として、従来はコンクリートブロックを張る方法がほとんどであった。これに対し斜め控え護岸（ＴＲＤ工法）は、セメントを現地の土と混合し斜めの地中壁を構築し護岸とするため、工費縮減・工期の短縮を図ることができます。

災害復旧工事においては、当初、コンクリートブロックによる護岸復旧の施工を考えていましたが、斜め控え護岸が開発されたため、この工法を採用することで大幅な工期の短縮と工費の縮減が図れました。

【施策のポイント】

・コンクリートブロックを施工する場合には、ドライ施工とするため施工範囲前面に仮締切工を行いますが、斜め控え護岸を採用することにより、仮締切が不要となります。
・また、コンクリートブロック張りは人力による施工が必要となりますが、斜め控え護岸は機械化による効率的な施工が可能となります。
・これにより、本工事において従来のコンクリートブロック張りでの施工に比べ、工事コストを約３９％縮減し、工期を２ヶ月短縮しました。

【施策の実施状況・イメージ図】

（従来：コンクリートブロック張りによる施工）

仮締切設置 → 土工 → 法覆工 → ブロック張り工 → 仮締切撤去

現場期間：約180日

約２ヶ月間の短縮

（今回：斜め控え護岸）

斜め控え護岸

現場期間：約120日

現場条件：法長10m、施工延長　L=400m

施工状況

・関東地方整備局利根下川流工事事務所　布佐上護岸災害復旧工事ほか
・北海道開発局、東北地方整備局、北陸地方整備局、中国地方整備局、四国地方整備局
九州地方整備局において計１０件（H11：７件）で実施